

令和2年度
事業計画書

令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を積極的に展開する。
- (2) 「立山・黒部」世界文化遺産登録へ向けて博物館の視点から積極的な情報発信を行う。
- (3) 立山黒部アルペンルートの玄関口に立地することから、要望が多い立山の風土を紹介する展示等の事業を行う。

2 展示事業

(1) 常設展示

立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介する。団体客に対しては、学芸員等が来館目的に沿った解説を行う。

①大型映像ホール

大型映像の投影 「タイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」
「立山カルデラ 大地のドラマ」、「崩れ」

②立山カルデラ展示室

立山カルデラや立山の自然と歴史を展示

・ ④ 県営砂防展示コーナーの新設

世界文化遺産登録に向けて、「立山砂防区域平面図」複製展示や黎明期の富山の砂防についての映像を上映する展示コーナーを新設

③S A B O展示室

立山カルデラの砂防事業を展示。

- ・ インバウンド対応として、立山カルデラ等を天空から眺める立山カルデラ 360° VR シアターを設置。

(2) 企画展、特別展

①特別展「花のアルペンルート立山」

4月15日（水）～5月24日（日）

立山では低山から高山まで様々な花を見ることができる。展示では厳しい環境で育つ美しい立山の植物について紹介する。

②土砂災害防止月間特別展「立山砂防の原点－県営砂防－」

5月30日（土）～7月5日（日）

明治39年から大正14年にかけて富山県が行ってきた先駆的な砂防事業について、近年の調査により判明した概要を、映像を交えて紹介する。

③企画展「立山の驚異-火の山・氷の山・水の山」

7月18日（土）～10月11日（日）

雄大な山岳景観を見せる立山連峰。そこには人々を驚かす美しい顔と恐ろしい顔が共存している。展示では立山の自然の驚異について紹介する。

④岩橋崇至写真展「立山」

10月17日（土）～12月20日（日）

立山の峰・溪・花の一瞬の表情をとらえた作品の数々を紹介する。

⑤写真展「素晴らしい自然を」

1月9日（土）～2月7日（日）

日頃から自然に接している自然保護協会の皆さんや学芸員が感じた、自然の素晴らしさや大切さを表現した写真を紹介する。

⑥特別展「ドローンでみる立山・立山カルデラ・砂防」

2月13日（土）～2月28日（日）

大災害をもたらす自然現象をとらえた貴重な映像や、土砂災害防止のため日々行われている砂防事業に関する映像を紹介する。

⑦公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラ ー大地と人の記憶ー」

3月6日（土）～4月11日（日）

立山や立山カルデラ、常願寺川一帯の大地や人の営みをテーマに、魅力ある作品を紹介する。

3 立山カルデラ砂防体験学習会

博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れて、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について体験しながら理解を深めてもらう体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所の協力を得て実施する。

(1) 実施時期 7月～10月

(2) 実施回数 42回

① トロッココース 28回（個人14回、トロッコ団体14回）

② バスコース 7回

③ バスコース（周知強化・観光振興室） 7回

(3) 解説員 富山県砂防ボランティア協会、立山神通砂防スペシャルエンジニア、博物館ボランティア解説員

(4) ⑧県営砂防施設等を含めたアドバンスコースの検討

4 「立山・黒部」世界文化遺産登録に向けての情報発信

(1) 外国人への情報発信の充実

（大型映像の英語・中国語対応、2F常設展示の英語・中国語・韓国語対応）

(2) 映像ホールにて、大型映像「タイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」を上映

(3) 映像「立山・黒部 世界遺産に向けて」をエントランスホールにおいて常時放映

- (4) 2階に砂防常設展示コーナーを設けて、常願寺川砂防施設群について常時紹介
- (5) 『立山・黒部』を誇りとし世界に発信する県民の会』との連携による講演会等の実施
- (6) 常願寺川流域全体の世界的に見ても特色ある自然・歴史・砂防の事象について、博物館の視点から総合的に解説した冊子を製作・販売
- (7) 世界遺産関連書籍等の委託販売（日本固有の防災遺産等）
- (8) 立山カルデラや砂防を解説した「立山カルデラたんけんブック」を小学生に配付

5 普及事業

(1) 学校行事における児童生徒の利用促進

飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を積極的に勧誘する。

学芸員等が来館のニーズに応じたきめの細かいガイダンスを行うとともに、学校関係者の来館に際して館情報を入手しやすくするためホームページに専用ページを設ける。

(2) 解説ボランティアの配置

博物館の展示について、来館者により理解を深めてもらうため、繁忙期の土・日・祝日は、解説ボランティアが館内の展示等に対する説明を行う。また、GW期間中には、富山国際大学の協力を得て、留学生に解説ボランティアの通訳を依頼し、外国人観光客により理解を深めてもらう取り組みを行う。

(3) フィールドウォッチング

①春の立山・雪の大谷 5月9日（土）

「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探る。

②材木坂と美女平 5月31日（日）

立山禅定道である材木坂を美女平までたどり、独特の地質や植物について観察。

③弥陀ヶ原台地と称名滝展望 6月14日（日）

立山の火山と常願寺川が10万年かけて創造した景観の謎について紐解く。

④立山の氷河眺望 8月22日（土）

雄山の登山道をたどりながら氷河地形をめぐり、日本で初めて発見された氷河を眺望。

⑤室堂山とカルデラ展望 8月30日（日）

室堂山への登山道をたどりながら、立山の生い立ちや大地の変遷について観察。

⑥弥陀ヶ原とカルデラ展望 10月3日（土）

弥陀ヶ原を散策しながら、地質地形や動植物、立山カルデラについて観察。

⑦秋の称名滝と常願寺川砂防治水探訪 10月18日（日）

常願寺川をたどりながら、動植物、大転石、砂防治水施設等を見学。

⑧立山の雪を体験しよう 2月6日（土）

雪について学んでから野外でかんじきハイクをして思いきり雪を体験。

(4) 特別講座

閑散期である1～3月に学芸員等が立山地域の自然等について話題提供する「立山カルデラ砂防博物館(野外)講座・はじめてのぶらかんじき」を開催。

(5) 移動博物館

①県民生涯学習カレッジ連携講座の開設

連携講座「魅力満載！立山の見どころまるごと探究！」を開催

②市民大学講座、地域公民館等との連携

市民大学や地域公民館等に学芸員が講師として出向き、「立山の雪氷」、「立山火山」、「地震と活断層」、「立山カルデラの動物」などの専門的な解説を実施する。

③立山砂防事務所との連携

児童・生徒を対象とした立山砂防探検隊、SABO体験楽校等への協力

④富山県砂防課との連携（土砂災害防止月間イベント）

砂防フェア2020（6月上旬）、子ども砂防教室（6月上旬～下旬）等の実施

⑤地元との連携

立山夏山開き「立山・称名滝の祭典」（7月、立山町）への参加、「たてやま千寿ヶ原 雪まつり」（2月、千寿ヶ原自治会）への参加 等

(6) サイエンスショーの開催 8月1日（土）、2日（日）

(7) 世界遺産登録推進シンポジウムへの協力

(8) 「博物館だより」等の発行

博物館だより(年3回)、イベントガイド(年1回)、イベントニュース(毎月)

(9) 博物館学芸員実習、教職員研修、14歳の挑戦事業等の受入れ

(10) 公式ソーシャルネットワーキングサービス

フェイスブック、インスタグラム及びツイッターを更新し、幅広い世代へ細かな情報発信を行う。

6 調査研究・資料収集

(1) 立山、立山カルデラの火山活動についての調査

火山活動が活発化している地獄谷や新湯について、継続モニタリング調査を実施し、近年の活動状況を明らかにする。また、火山活動がもたらす災害を防止する基礎情報とし、火山災害防止についての普及活動に資する。

《現状》立山・地獄谷では、継続観測により、噴気温泉温度、地表面温度分布、土壌ガス濃度、温泉水組成の経年変化や噴気場所の変化を明らかにした。また、立山カルデラ・新湯では、干満と水温変化を継続観測して、引き続き間欠泉となっていること

を確認した。

《R 2》地獄谷、新湯とも、激変期にあり変化が激しいことから、継続してモニタリングを実施する。また、火山災害についての普及活動に資する資料を作成する。

(2) 明治期の治水砂防史料（高田雪太郎史料、県営砂防資料）の調査

寄贈された高田史料の解読を継続し、明治期の富山県の治水砂防について新たな知見を得る。また、県営砂防資料の収集解析を行い、展示に供する。

《現状》高田史料のデジタル化がほぼ完成した。また、日記の解読を進め、デ・レイケの立山カルデラ視察の詳細や当時の土木工事の進捗状況が明らかになりつつある。

《R 2》高田史料の他、県営砂防関連資料の収集とデジタル化を進める。デ・レイケの日記の解読を進め、立山カルデラ視察や土木工事の進捗状況を明らかにする。また、県営砂防に関する貴重な図面資料が寄託されたので、他の県営砂防資料とともに、展示や世界遺産に向けての資料として活用する。

(3) 立山連峰における氷河調査

発見された氷河の特性や形成維持過程を解明し、日本の氷河の特性や温暖化等の気候変動に対する応答特性を明らかにする。また、世界的に特徴のある立山の雪氷についてその実態を明らかにする。

《現状》ドローンや航空機による測量を実施して、各氷河の変動傾向を継続観測した。常設展示に氷河コーナーを設け、日本で初めて氷河氷の実物展示を開始した。

《R 2》温暖化の進行の中で立山の氷河群がどのように変動しているのかを探るため、各氷河および刃沢雪渓等の変動傾向を、ドローンや航空機による測量により探る。また、氷体の物理特性や氷化過程に関する調査を実施し、日本の氷河の特性を明らかにする。

(4) 立山カルデラにおける植生調査

未調査地域の全ての植物をリストアップし植物相を明らかにする。また、空中写真等を収集して立山カルデラの植生の遷移をモニタリングする。

《現状》未調査地域のうち、弥陀ヶ原、美女平周辺の植生調査を実施し、特徴的な樹木相を明らかにした。また、カルデラ内の植生遷移を確認するため、航空写真資料の収集を行った。

《R 2》引き続き未調査地域の植物相を明らかにするとともに、植生の遷移についての情報を収集する。また、収集した航空写真を解析し、植生の変遷、砂防工事の進捗による植生復元についての基礎情報とする。

(5) 立山・立山カルデラにおける動物の生息・生態調査

立山および立山カルデラ地域の動物（哺乳類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類等）の生息状況調査を実施し、その分布や生態を明らかにする。また、近年生息数が増加しているニホンジカやイノシシの実態を明らかにする。加えて、ツキノワグマの生息調査を継続し、工事関係者の動物遭遇事故防止の一助とする。そのほか、立山地域の希少種動物（ライチョウ、オコジョ、ヤマネ、メススジゲンゴロウ等）についての情報収集を行う。

《現状》立山カルデラ内で引き続きイノシシの痕跡が増加傾向であることを確認した。さらに、立山カルデラや立山高山地域の湖沼で希少な水生昆虫の生息が維持されて

いることを確認した。また、秋期にツキノワグマ出没被害が多発したため、遭遇事故防止のための啓蒙活動を多数実施した。

《R 2》気候変動に伴い県内や高山帯に進出している種（ニホンジカ、イノシシ等）の生息調査を継続して実施する。また、痕跡確認や直接観察等によるツキノワグマの生態調査を継続し、立山カルデラ内での生態を明らかにして、危険防止対策に供する。

(6) 立山山岳地域における降水量、積雪量調査

未解明点の多い立山・立山カルデラ地域の積雪量を明らかにし、また近年の気候変動に対する応答特性を長期モニタリング調査により解明する。さらに、山岳地域での短時間豪雨の実態を明らかにするため、高い標高での降水量観測を継続して実施する。

《現状》高山地域の積雪量、冬期降水量を継続測定した結果、冬期降水量は平均で 3000mm を超える世界的な量であることが判明した。高山地域の雨量については、室堂でモニタリング観測を継続し 6～9 月のみでも平均 3000mm 近い降水量があることが判明した。これらの成果を世界遺産登録に向けての資料として供した。

《R 2》データが不足している高山地域での降水量モニタリングの観測点を標高ごとに増やして継続的に観測し、立山の標高別降水量の平年値を算出する。また、変動の激しい積雪量について、標高ごとの変動観測を継続して実施する。これらの結果をまとめて、立山の降水量、積雪量が世界的な値であることをさらに実証し、世界遺産へ向けての基礎資料とする。また、山岳地帯での遭難事故を防止するため、立山地域の雪崩についての調査研究を実施する。これらの成果は、富山県立山雪崩情報（HP）の基礎データとして活用し、山岳遭難防止に供する。また、得られたデータは、富山県警山岳警備隊や国立登山研修所と連携して、立山地域での山岳遭難防止のために活用する。

7 外国人対応等入館者数増加対策

- (1) ④問い合わせの多いピンポン球なだれ実験を繁忙期に実施
- (2) 入館料等のキャッシュレス対応
- (3) 立山駅からの誘導サインを設置
- (4) 大型映像の英語、中国語通訳レシーバー貸出
- (5) 2 F 常設展示の英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語解説タブレットの貸出
- (6) GW期間中に解説ボランティアが行う展示解説に通訳（中国人留学生）を配置
- (7) 英語、中国語による立山の自然や観察ポイントのパネル説明及び映像投影

8 博物館友の会

- (1) 会員参加行事の充実（立山カルデラ砂防体験学習会、類似施設見学会 等）
- (2) 友の会だよりの発行
- (3) 博物館周辺のにぎわい創出など